

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	有限会社ゼロ	代表者	市澤祐一	法人・事業所の特徴	ご利用者様一人一人の人格・ご希望を尊重し、住み慣れた地域での生活を継続することができるように、通所、訪問、宿泊を組み合わせた柔軟なサービスを提供しています。地域との交流を図り、また、メリハリのある生活を送っていただけるよう、外出、外食の企画を立て、実行しています。
事業所名	輝楽の家六実	管理者	大野るり子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
		4人	1人	人	1人	1人	2人	2人	人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	送迎時に家族と話す機会が少ないので、連絡帳をさらに活用し、日中の様子など情報共有していこうと思います。家族の悩み事を聞き、他のスタッフに伝達し、対応策を考える。意見、苦情を今後に生かす。	会って話すのが難しい方でも連絡帳で日頃から関係を構築し、担当者会議でも意見を言ってもらえるようになった。職員間でも情報収集の結果をミーティングで共有し、ミーティングに全員揃うのが難しかった。その場合、個別に伝えるようにした。朝礼などを行い、共有事項を都度話せる機会を設けた。	外部からではミーティングで活発に意見が出されているか不明。よくしていこうと取り組んでいる様子が見られる。	①研修への参加を促し、情報や良い事例、問題解決能力の向上に努める。 ②ご利用者様、ご家族との関係構築を強化し、本音が言える環境作り、自立支援を実現するため意欲に応え、サポートする。
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所に入ると、利用者様の貼り絵、日中の様子など掲示しているが、玄関は物が多すぎて事業所に地域の人が入りづらい。外から見ると「デイサービス」「小規模」の区別がつかない	玄関の物を整理し、誰でも入りやすい環境にした。	整理されているので入りづらいとは思わなくなった。	①外看板、エントランスにて「介護」というくくりだけではなく、どのようなサービスを行っているところかわかるようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	気軽に入れるように入り口を考え、相談できる場所に努めます。	ふらっと相談に来る人が増えたが職員が臨機応変に対応することができなかった。スタッフは地域の行事やイベントにほとんど参加できていない。	町会のお茶飲み会に参加してほしい。登録者以外の地域の方が運動できるジムが施設内にあり、地域に向けて開放だと思ふ。	①事業所のジム、会議室など地域の方でも利用できるよう周知を行う。 ②防災の会合など地域課題に貢献の可能性のある会合に参加をする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の会議や行事イベントに参加する。地域に小規模多機能をアピールする。	ご利用者様とスタッフで地域の夏祭りに参加できた。	事業所の内容を地域の方々に知っていただき、安心して選んでもらえることが大切。	①近所の散歩、食材や備品の買い物などにもお声がけし、外出の機会を増やす。 ②地域との繋がりが多い方にはその繋がりを継続できるようサポートする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議では、ご家族の参加を強力いただき、かつ内容など情報共有を行う。運営推進会議にスタッフも出席させる。	ご家族への参加は実現できなかった。	活動している中で困ったこと、他に参考になることなどもっと活発に話してほしい。家族への参加は声かけを継続して行い、参加につなげてもらいたい。	①事業所の取り組みを発表するだけでなく、会議で地域の課題などを発信いただき、それに対して事業所が何ができるかなどを模索していく。良い点だけでなく課題なども発信していく。 ②現場職員が発信する機会を設ける。
F. 事業所の防災・災害対策	避難訓練には多くの方に参加していただく。訓練の日は通いのご利用者様の確保、家族にも事前説明して見学、参加をお願いする。	防災訓練の日にはご利用者様、ご家族へも案内をし、多くの方に参加いただいた。マンネリ化してしまい、防災訓練時のヒヤリハットなどが出ないため、気づいた点などを共有し、対策を打てるようにしたい。	災害時の設備や備えを聞き安心することができた。自力で動けない入居者に対するマニュアルなど用意してあると良い。	①防災時のマニュアルの改善。環境整備などを行う。